

令和4年度 第1回仙台市障害者自立支援協議会	
令和4年8月30日	参考資料1
令和3年度 第1回仙台市障害者自立支援協議会	
令和4年3月16日	参考資料1

令和3年度 青葉区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等(簡潔に記載してください)
(1) 全体協議会 (青葉区高齢者障害者地域会議)	1回	「人のつながりを広げる取り組みーやさしさを分け合えるまちへー」をテーマに掲げ、だれもが参加しやすいこと、住民と関係機関が一緒に取り組んでいることなどについて事前アンケートを行った。その中から3件報告を行い、グループワークで意見交換等を行った(オンラインでの実施)。
(2) 実務者ネットワーク会議 (サポネットあおばのつどい)	2回	障害者の権利擁護や顔の見えるネットワークづくりの観点から、以下のテーマを掲げて実施 ①『オンラインでネットワークづくり、しませんか?～他事業所での取り組みに学ぶ～』 参加者のネットワーク形成を目的に、自己紹介及びコロナ禍における支援状況を共有した。 ②『オンラインでネットワークづくり、しませんか?～地域における支援のヒント～』 障害福祉サービスが地域移行に果たす役割や、障害当事者の高齢化に伴い「地域に暮らす住民」として高齢分野との垣根を越えた支援の必要性が高まることを改めて学び、グループワークを通じ深めた。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	7回	重点的に関わる対象者に対して継続的な支援が展開され、相談支援の強化が図られるよう、専門機関も交え、個別課題の抽出、解決方法等の意見交換を行う場であるが、オンライン開催となったため、話題提供が中心となった。
(4) 地域展開チーム	12回	障害者を含む地域の方のつどいの場作り、地域の方を対象とした障害者に関する啓発、「重点的に関わる対象者」との早期の出会いなどを長期目標としながら、地域の既存の集まり等に参加し、ニーズの把握や地域展開のノウハウを学んだ。
(5) 運営会議	12回	各協議体の進捗管理や地域生活支援拠点事業の運用について検討、情報交換等を行った。

1 今年度の主な取組み

○障害者相談支援事業所等連絡会議(以下、連絡会)

今まで対面で毎月行っていたが、コロナ感染症対策のために隔月、Web 開催として話題提供および情報交換を中心として行ってきた。

なお、1月のみ対面で実施し、本来の目的である事例検討やケースレビューを行った。

○実務者ネットワーク会議(以下、つどい)

新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインの開催となったが、コロナ禍で顔を合わせてつながる機会が難しい中、特に第1回開催時は感染拡大中でもあったため、オンラインでの開催を実施できたことは意義深かった。

地域包括支援センターにも参加依頼し、高齢分野の支援者とのネットワーク形成の場とすることができた。

2回目の開催時はブレイクアウトルームを用いてグループワークを実施し意見交換の場が持てた。

○地域展開チーム

主に国見地区の地域の意見交換会や子ども食堂、介護予防教室、市民センター、児童館など7ヶ所(団体)の見学、インタビューを実施し、青葉区まちづくり推進課、健康増進センター等の障害分野以外の関係機関と連携や地域向けにサポネットあおばの存在をアピール。

地域展開の企画は、既存のネットワークに乗りつつ、地域のニーズに即した内容で、障害の有無や年齢制限を設けず、気軽に参加できるような敷居の低いものであることが望ましいことを学ぶ。

2 現状における課題(地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など)

オンラインにおけるセキュリティポリシーの都合上、個別事例を取り扱うことが難しく、事例検討やケースレビューを実施できていないが、今後、相談支援の強化という会議目的においては、事例検討やケースレビューも必要であり、個別事例の取り扱いについても検討が必要である。

サービス利用を前提とした指定特定相談支援事業所からの参加は低調であり、区全体で意義や目的を共有できるようにすることが課題である。

「重点的に関わる対象者」に支援が届くための体制作りには、障害のある方にかかわらず、すでに地域にある、地域になじみがある仕組みの活用が有効であると考えられる。その仕組みの中にどのようにして障害のある方への支援のエッセンスを加えていき、支援の共有を積み重ねていくかが課題である。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

重点的に関わる対象者へ効果的支援の届く体制作りに向け、引き続き下記の3段階に分けた体制整備を念頭に各会議体の運用に臨む。

第一次体制…重点的に関わる対象者とならないための体制作り

第二次体制…重点的に関わる対象者が早期に支援機関につながるための体制作り

第三次体制…重点的に関わる対象者が適切かつ継続的な支援を受けられる体制作り

令和3年度 宮城野区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等(簡潔に記載してください)
(1) 全体協議会	1回	H30 年度より区地域ケア会議と合同開催。コロナ感染拡大の状況のため書面開催とした。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動報告 ・感染対策に留意した形(電話等)による委員との意見交換
(2) 実務者ネットワーク会議	4回	<p>①全体会 テーマ:コロナ禍での当事者と支援者の健康を考える 仙台市精神保健福祉総合センターと仙台市健康増進センターを講師に講話と運動実技の内容で開催。</p> <p>②エリア会</p> <p>【鶴ヶ谷周辺エリア】 ・健康相談会(子育て・介護・心の相談)を開催。</p> <p>【幸町周辺エリア】 ・つながるつなげるタイミング情報交換会を開催。</p> <p>【高砂・岩切エリア】 ・情報交換会(コロナ禍での課題等)を開催。</p>
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	7回	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個人情報を取り扱うことからオンライン開催は難しく、国や県独自の緊急事態宣言中は中止。それ以外の期間は対面で開催。 ・内容:相談傾向と課題の共有、事例検討・GSV・ケースレビュー、勉強会(9月:保護観察所を講師に医療観察法・保護観察に関すること。12月:児童発達支援事業所を講師に児童発達支援に関すること。)
(4) プロジェクトチーム	0回	なし
(5) 運営会議	12回	<ul style="list-style-type: none"> ・国や県独自の緊急事態宣言中はオンライン併用で開催。 各会議体の進捗管理、課題解決に向けて区自立支援協議会全体の活動の検討を継続した。
その他の活動		なし

1 今年度の主な取組み

(1) 実務者ネットワーク会議全体会

昨年度から続くコロナ禍により、支援者も心身ともに疲弊している様子が見られた。そのため、支援者自身の健康維持を図ることを目的に、研修会を開催した。コロナ禍でのメンタルヘルスの特徴や、ゲートキーパーの視点での関わりといった基本を理解した他、人によりリスク認知が異なるため、地域活動に参加時に感じる不安に寄り添うといった地域活動での支援の心得についても再認識した。また、スキマ時間にできる運動やリラックスできる運動等、普段の支援や支援者自身の健康維持に活用できそうとの声があった。

(2) 実務者ネットワーク会議エリア会(区内3エリア 鶴ヶ谷、幸町、高砂・岩切)

【鶴ヶ谷エリア】

鶴ヶ谷にある手芸店店舗前にて、地域包括支援センター、家庭健康課とともに健康相談会を開催。7名の相談があった。相談対応だけでなく、分野を超えた支援者の交流、情報交換ができた。

【幸町エリア】

地域包括支援センターと、介護保険対象者が活用できる障害福祉サービスや65歳のサービス切り替えの共有、事例検討を行った。対象者にとって効果的な支援とするための関係づくりができた。

【高砂・岩切エリア】

地域包括支援センターを交えて、コロナ禍での相談内容や支援方法の変化や課題、工夫や、実際に支援した事例を通して各機関でどのような支援ができるか、情報共有した。

(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議

参加者同士、よりぎっくばらんに話し合える場、サービス事業所との情報交換の場があるとよいとの意見から、勉強会/情報交換会を企画・実施した。9月には、保護観察所の方を講師に医療観察法・保護観察法の講義と、個人ワーク形式での事例検討を実施した。12月には、「仙台市における障がい児支援」というテーマで児童発達支援センターの方の講義と、意見交換を行った。

2 現状における課題(地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など)

- ・相談傾向と課題の共有にて抽出された地域課題:8050 問題、新型コロナウイルス感染症に関連したこと(ワクチン接種や副反応に対する不安、生活リズムの乱れ)、チーム支援(支援のマッチング、地域や他分野との連携)、障害者の高齢化(介護保険サービスへの移行等)
- ・参加する区内指定特定相談支援事業所は増えたが、参加職員は限られている。より多くの方に参加してもらい、指定特定相談支援事業所をバックアップできる体制を強化していく。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・今年度の実務者ネットワーク会議全体会の流れおよび、エリア会で抽出された地域課題を検証し、テーマとして掲げていく。
- ・障害者相談支援事業所等連絡会議の勉強会や情報交換の内容、テーマは、引き続き参加者の意見を取り入れながら検討する。

令和3年度 若林区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等(簡潔に記載してください)
(1) 全体協議会 (IGASU 会議)	1 回	<p>ハイブリット形式で開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「障害・高齢分野における連携への取り組み～8050問題のある事例を通して感じたこと～」との話題提供ののち、グループワークを行い、高齢・障害分野の連携強化に向けた意見交換を行った。
(2) 実務者ネットワーク会議	1 回	<p>オンライン形式で開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ テーマを「学校教育から福祉へ ～18歳の移行期における現状と課題～」とし、特別支援学校・生活介護・就労継続支援B型・指定特定相談支援事業所・委託相談支援事業所・若林区障害高齢課による実践報告とディスカッションを行った。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	11 回	<p>状況に応じ、書面、ハイブリット、集合開催。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍における支援状況の共有や、各事業所で抱える課題についての意見交換。 ・ 「学齢期から成人期への移行期の課題」に対する解決策のアイデア出しや具体的な方策の検討。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 連携強化に向け、学校教員に当区自立協への参加を促すための方策の検討。 ・ 既にある情報共有ツールについて学びを深めるため、サポートファイル等に関する勉強会の実施。 ・ 「8050世帯へのアプローチ」をテーマとした地域包括支援センターとの合同勉強会。
(4) プロジェクトチーム	0 回	活動なし。
(5) 運営会議	12 回	<p>状況に応じ、書面、オンライン、集合開催。</p> <p>上記各活動の企画・運営に関する検討や進捗管理、市協議会等の関連会議に関する報告・検討等。</p>

1 今年度の主な取組み

①教育分野とのよりよい連携に向けた取組み

令和2年度から「学齢期から成人期への移行期の課題」に焦点をあてて検討を行ってきた。ライフステージが変わり支援者が変わっていく中で、教育分野との情報の引き継ぎや連携の難しさが共通課題として見えてきていた。

そこで今年度は、障害者相談支援事業所等連絡会議にて、課題に対する解決策のアイデア出しや、具体的な方策の検討を行った。学校教員にも当区自立協に参加してもらうために必要な事柄について検討し、当区自立協の取組みをPR・説明できるような媒体を作成してはどうかという意見が出た。また、すでにある情報共有ツール(サポートファイル等)について学びを深めたいという意見もあり、勉強会を実施予定。

実務者ネットワーク会議では、お互いの実情を知り顔が見える関係を作ることを目的に、特別支援学校、障害者相談支援事業所(指定特定・委託)、成人通所施設(生活介護・就労継続支援B型)、区障害高齢課を話題提供者に招き、それぞれの実践報告や、スムーズな移行のために必要な事柄を話し合うディスカッションを実施した。

②高齢分野との連携強化に向けた取組み

障害者相談支援事業所連絡会議にて、地域包括支援センターとの合同勉強会を実施。8050問題をテーマとし、中高年のひきこもりに関する講話と、グループワークを行い、高齢・障害分野の連携に関し話し合った。

また、全体協議会(IGASU会議)でも、8050問題をテーマとし、ひきこもり地域支援センター「ほわっと・わたげ」による話題提供と、地域連携に必要な取組みを話し合うグループワークを行った。

いずれも、支援を行う上で分野の垣根を超えて連携する大切さ、それぞれの立場でできることを考える機会となった。

2 現状における課題(地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など)

複数年検討してきた「学齢期から成人期の移行期の課題」に対しては、検討の成果として、課題解決の一助となるような具体的な活動を行いたい。

高齢分野との連携についても、以前よりは顔の見える関係が出来てきたが、協働支援の実績は少なく、今後も連携強化に向けた取組みを継続する必要がある。

コロナ禍において、集合開催が難しくなることが度々あったが、連絡会議の参加事業所の中にはオンラインの体制が整っていない事業所もあったため、書面開催とし、それに応じて本来行いたかった企画を修正する必要が生じた。開催方法と協議内容の組み合わせを、感染拡大状況に応じて臨機応変に組み立てなくてはならず、運営上困難さを感じることもあった。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

教育分野との連携強化に向けて、当区自立協PR媒体を作成したり、学校現場に出向く等の活動を通し、顔の見える関係作りを行っていきたい。

高齢分野との連携に関しても、IGASU会議の委員任期である3年間は「8050問題」を切り口に、地域包括支援センターとの合同勉強会やIGASU会議の企画を考えていく。また、IGASU会議で委員から頂いた意見をもとに、地域に出向く形で相談に応じられる体制の検討を行う。

感染予防には十分配慮しつつ、ネットワーク形成や支援力向上のため、可能な範囲で各会議を開催していけると良い。

令和3年度 太白区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等(簡潔に記載してください)
(1) 全体協議会	0回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のつながりをテーマに、支援事例や地域での活動を報告する。 ・コロナウイルス感染症拡大のため中止。
(2) 実務者ネットワーク会議	5回	<ul style="list-style-type: none"> ・各エリアにわかれ、地域ごとの地域課題を確認している。(災害時要援護者リストの普及推進や、若年者の余暇や外出支援など)
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	5回	<ul style="list-style-type: none"> ・委託事業所、区、専門機関で共有したい事例のレビュー(隔月) ・指定特定事業所向けの情報交換
(4) プロジェクトチーム	0回	
(5) 運営会議	10回	<ul style="list-style-type: none"> ・実務者ネットワーク会議について(運営や進捗) ・相談支援事業所連絡会について ・本会の報告
その他の活動		
研修協力	1回	<p>仙台市ケアマネジメント従事者養成研修(実践者研修)にて、太白区自立協の取り組みを報告した。</p>
太白地域丸ごと相談事業	8回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のサロン等に出向き、様々な相談を一旦受け止め切れ目ない支援に結ぶ。 ・愛宕橋地域包括圏域と、西中田地域包括圏域の一部で実施している。
太白地域丸ごと健康運動教室	4回	<ul style="list-style-type: none"> ・年代や障害の有無を問わず、健康づくりを目的とした健康運動教室を開催。

1 今年度の主な取組み

- ・相談支援事業所連絡会：指定特定事業所の参加を促すため、関心が高い内容に絞り、委託相談支援事業所が中心となって参加を呼び掛けた(右図参照)。
- ・実務者ネットワーク会議：太白区自立協としての目標は、会議に障害がある当事者にも参加してもらうことである。これまで事業所間の情報交換や困りごと相談の場として機能してきた会議でもあったため、委託相談支援事業所と会議の目的や持ち方について見直しを行った。

相談支援事業所向け 情報交換会

他機関との上手な連携って？

効率の良い加算の取り方は？

支援が難しい利用者さんにご対応する？

他の事業所ではどのように記録をまとめているの？

監査のポイントは？

相談支援業務中での疑問や悩みはありませんか？

相談支援の悩みや疑問を「共有する場」が無いか・・・そのような声にお応えし、相談支援事業所対象の情報交換会を開催しています。今回は太白区障害高齢課さんにもご参加いただき、サービス申請に関する事やケース相談の窓口についてなどの質問・意見交換ができる場所となっています。普段の業務にも活かせる繋がりを持ち、チーム支援の一助となればと願っています。

日時：令和4年1月21日(金) 16:00-17:00
場所：ハンス太白

2 現状における課題(地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など)

- ・実務者ネットワーク会議：エリアによって取り組みに差が生じており、地域に出向いて活動できているエリアから地域課題の把握に至っていないエリアまで濃淡がある。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・令和4年度は、3エリア全てで「地域丸ごと相談事業」を実施する。

令和3年度 泉区障害者自立支援協議会 取組状況

○実施状況

会議	年間実施 予定回数	主な内容・議題等(簡潔に記載してください)
(1) 全体協議会	1回	新型コロナウイルスにより、リモートと会場参加型のハイブリット形式で開催。31名全員が参加。『連携』を主題とした三か年計画を提案。令和5年度末までに、地域課題抽出及び解決方法(支援体制・制度)の提案を目標。
(2) 実務者ネットワーク会議	5回	Web開催も含め実施。コロナ禍で支援者同士の繋がりが希薄にならないよう、色々な思いを語り合う場として活用した。
(3) 障害者相談支援事業所等連絡会議	8回	<ul style="list-style-type: none"> ・地域生活支援拠点について、模擬レビューを実施し認知度の向上を図り、住居に課題や問題を抱えるケースを複数出し合った。3回開催予定であったが、コロナの影響で2回開催。住居に関する課題として、複数年計画で取り組んでいく。 ・相談支援事業所のみ参加の会を設け、計画の本来の意義の振り返り、計画相談に関する勉強会を実施、事業所のスキルアップを図った。 ・聞いてみたい他分野の話について参加者から出し合っ てまとめ、次年度以降の連絡会議の内容の参考とした。
(4) プロジェクトチーム	0回	実績なし
(5) 運営会議	12回	各会議体での進捗管理、地域生活支援拠点レビュー、基幹相談支援センターとの協働状況の共有等。各部会等の報告。
その他の活動		特になし

1 今年度の主な取組み

(1) 障害福祉分野への広報活動を強化

- ・実務者ネットワーク会議の取り組みを通じた広報活動。
- ・地区民生委員児童委員への参加・挨拶は、新型コロナウイルス感染状況を鑑み、可能な範囲で実施。
- ・地域包括支援センター主催の研修会に委託相談支援事業所・障害高齢課が講師として参加し、自立協や相談支援事業所への相談を周知した。

(2) 参加機関の支援力の向上・スキルアップ

- ・コロナ禍での各事業所の業務の取組方や困りごと等を共有。
- ・連絡会議にて、お互いに立案したサービス等利用計画案を持ち寄り意見交換を実施。
- ・ " 地域生活拠点事業活用を指定特定相談支援事業所へ広げるため、『住まいに課題のあるケース』と題し、運営会議で行っていたレビュー観覧を行った後、指定特定相談支援事業所から該当するケースを列举してもらった。

(3) 泉区内の支援課題の把握・整理

- ・困難事例の集約から困難と感じる要因等を分析・整理する事を複数年計画で行う。これを運営会議にて共有。

2 現状における課題(地域ニーズや課題、協議会運営上の課題など)

- ・各指定特定相談支援事業所等で課題に感じていること、全体でスキルアップが必要であることなどの意見を聞きながら、主体性をもって参画できる方法で進めていきたい。
- ・より参加者のスキルアップが図れる事例検討の方法について、検討が必要。
- ・連絡会に参加する事業所が固定されている。参加できなかった事業所へのフォローアップとして、開催案内とともに前月の次第、参加者名簿、支援状況を添付しており、これを複数年続けているが、具体的な成果に結びついている印象も無く、根本的な見直しが必要。

3 課題に対する次年度以降の取組予定

- ・今年度、参加者から出された意見を元に、次年度の活動を企画・運営していく。その際、参加者にも企画・運営等に参画してもらおう。
- ・『住まいに課題のあるケース』からのアプローチを次年度も継続。その中で困難事例の検討等につなげていくのも一つ。
- ・連絡会参加率アップに関しては、今後も検討が必要。例えば、教育分野からの参加率を上げるために、『児童』をテーマとした事例検討会や研修会を企画することもあり。